

県教委 「誘導アンケート」中止を決定

信楽高校分校化の撤回へ 県が検討

中学生に聞くべき内容ではない

県教委は、長浜市の中学2年生を対象にした「高校再編に関するアンケート調査」の中止を発表しました。

県教委は、7月11日の「長浜の未来を拓く教育検討委員会」で、同アンケート用紙を示し実施の方針を説明。委員たちから「中学生に聞くべき内容ではない」「誘導質問だ」などの批判が相次ぎました。しかし、県教委は設問内容を多少手直しして、13日までに長浜市の全中学に同アンケート用紙を運びました。夏休み直前の行為で、如何に慌てているかが察せられます。

13日「会」も校長も申し入れ

これに対して、12日、「湖北の高校を守る会」が、長浜市の藤井市長と北川教育長に「県がアンケートの実施をしないよう意見を」と申し入れました。13日には、私たち「県立高校の統廃合を考える会」は、知事と教育長に「誘導アンケートは

直ちにやめよ」と申し入れました。同日、長浜市内の3つの中学の校長が長浜市の北川教育長に申し入れました。3つの申し入れの結果、同日、県教委は長浜の各中学校にアンケートの延期を通知し、17日には、アンケートの中止を発表しました。

県の魂胆 直ぐに見破る地域の力

6月13日の、河原教育長の「統廃合の組み合わせは原案通り」とした議会答弁は、大きな反発を招きました。焦った、県は、アンケートを実施して「長浜市民の声を担保」にしようと考えました。しかし、「誘導アンケート」は実施できませんでした。

この経過は、次のことを意味しています。1つ、「統廃合先にありき」の県の思いは、地域住民の思いとどんどん乖離している。2つ、県は、アンケートを県の施策を進める誘導手段に使う誤りを自覚していない。3つ、2年間にわたる地域住民

のたたかいは、アンケートの狙いなど直ぐに見破る力を蓄えている。4つ、理不尽な行為(アンケート)は、機敏に対応すれば止めることができる。

知事 甲賀の「提案を実現させたい」

本日付の『京都』は、「県教委は甲南高校の分校とする予定だった信楽高校について、存続を認める方向で調整に入る方針」と報道。『朝日』も「知事と教育長は分校化撤回も選択肢とする考えを示した」と報道しています。『朝日』によると、17日に、中嶋武嗣甲賀市長が知事と教育長に提言書を提出。提言は、県外出身者や遠距離通学者への信楽鉄道を使った通学への補助制度、住居確保への支援。陶器企業などでの職業体験等を検討するとしています。知事は「願ったりかなったり。提案を実現させたい」と述べました。

ストップ高校統廃合速報 2012年度第13号

2012/7/18 県立高校の統廃合を考える会

077-522-4965 FAX 077-522-4978